

円続落 一時129円台前半

20年ぶり円安水準更新

20日の東京外国為替市場の円相場は、日米金利差の拡大を意識した売り優勢の流れが続ぎ、一時1ドル129円台前半の安値水準まで下落しました。日銀が特定利回りで国債を無制限に買い入れる「指し値オペ」をきっかけに利益を確定する動きも出て乱高下する展開となりました。午後5時現在は128円65〜66銭と前日比60銭の円安・ドル高。

米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げがこれを受け、金利高の圧力を和らげるため、日銀が3月末に続いて指し値オペに踏み切り、日米の金融政策の違いが顕在化すると観測が浮上。その結果、円安・ドル高進行に弾みがつくと見込んだ投機筋の間では円売り・ドル買いの動きが広がりました。円相場は、20日早朝には129円台を付けるなど、一時はわずか1日で2円程度下落し、約20年ぶりの円安水準を更新しました。

加速するとの見方から、長期金利が大きく上昇する中、その影響が及ぶ形で19日の東京債券市場では、長期金利が日銀の許容する上限である0・25%に到達していました。